



豊かな子

明るく、思いやりのある子
夢に向かって、自ら学ぶ子
身体を鍛え、最後までやりぬく子



5年「宿泊体験学習」

10月22、23日、諫早少年自然の家に体験学習に出掛けました。雨のためプログラムを大幅に変更し、体験の質を落とさないようにしながら活動に取組みました。5年生の宿泊体験学習のテーマは「防災」です。物が不足した場合やライフラインが絶たれた時などを想定したプログラムに、子どもたちは、真剣な表情で臨んでいました。自然災害発生時に役立つのは、**人間の知恵**と**思いやりの心**、そして**行動力**だと思います。

諫小の5年生は、他を受け入れ共生していこうとする豊かな子へと確実に成長しています。



6年「小体連体育大会」

第20回の記念大会「小体連体育大会」に、市内28校の児童約1,200名が集い、盛大に開催されました。天候が心配されましたが、子ども達は自己の目標に向かって、熱く競技に臨んでいました。頑張れた自分、納得いかなかった自分、すべてが貴重な学びとなり、明日からの自分の生き方に影響を与えてくれることでしょう。6年生のみなさん、よく頑張りました。



2年「算数・研究授業」

2学期制の良さを生かして、先生方は授業技術の向上に取り組んでいます。先日は、諫早市教育委員会の指導主事を講師として招聘し、授業研究会を開催しました。学校教育目標「豊かな子の育成」に向けて、教育課程の充実、一時間の授業の改善を積み重ねています。2年生のかけ算の学習では、個人と集団の学びをしっかりとつなぎ合わせ、コミュニケーションを図りながら、問題解決を進めていきました。



シリーズ親学「子どもに生きる力をつけさせるために」

子は親の鏡

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
「かわそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
親が他人をうらやんでばかりいると、子どもも人をうらやむようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
ほめてあげれば、子どもは明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、
子どもは、この世の中はよいところだと思えるようになる

『アメリカインディアンの教え』加藤諦三

子育ての大前提として、**子どもにとって家庭が安全な環境であること**、そのことによって、子ども自身が自信を持ち、何かに挑戦してみようという気持ちが生まれてくるのです。子どもが、新しいこと、今まで自分がやってこなかったことに挑戦していこうとする力は、「失敗しても大丈夫」という安心な環境があってこそ、大きく成長するものなのです。

このことから、子どもが自立・自律していくためには、親子の幸せな関係性がとても大切だということが分かります。

「ぐずぐずしないで、早く決めなさい」

「なんでそんなこともできないの」

口うるさく、子どもに対して感情的に怒ってはいませんか。このような叱責は、親自身の「ダメなところ、嫌いなところ」ということはありませんか。つまり、注意する人がこだわっている部分で、自分がしてきた失敗を子どもにはさせたくないという気持ちが働いているのでは…。アメリカインディアンの教えから、**温かくて、家族みんなが幸せ**



になる親子関係、生きる力を育む前向きな言葉かけについて、学んでみることにしましょう。